



- ① はじめる笑顔でハヤチネフーズのヨーグルト販売
- ② 花巻産のリンゴの試食販売や、きなこ餅の振る舞いに挑戦!
- ③ やさしい言葉を掛けられ、笑顔があふれました
- ④ 杵と臼で一生懸命餅つきをする男子
- ⑤ 勇気を出して歩み寄り、来客も笑顔で迎えた
- ⑥ JAビルでは故郷の農業への思いを頑張って伝えた
- ⑦ 直筆したメッセージカードは自らの手で準備

農業塾カリキュラム

12/26

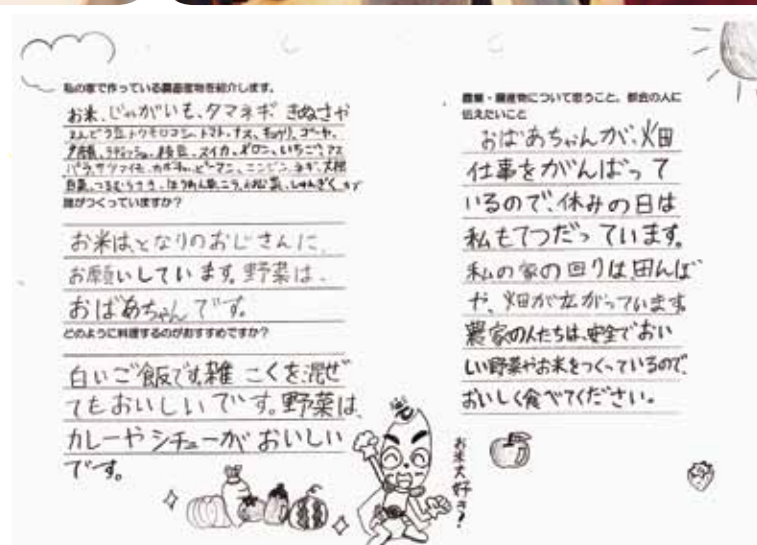
- 7:10 団結式
- 7:25 花巻発
▷車内研修会
- 10:16 東京着
- 11:00 大手町JAビル到着
メッセージ入り「紅白もち」の配布作業
- 12:20 昼食
(ニュートウキョースキヤ橋本店)
▷東京都内見学
- 17:45 ホテル着オリエンテーション

12/27

- 6:30 起床
- 8:00 ホテル出発 バス移動
- 9:00 JA横浜農産物直売所
ハマツ子メルカートきた店で販売体験
- 12:00 昼食 (横浜マリンタワー)
- 14:00 家の光協会見学
- 17:45 夕食
(フジテレビ キッズカフェ ママトコ)
- 19:20 ホテル着オリエンテーション

12/28

- 6:30 起床
- 8:20 ホテル出発
▷東京都内など見学
- 16:28 東京発
- 19:19 花巻着
解散式



消費地で故郷の 農業・農産物の大切さを再確認

～はなまきKid's農業塾in東京・横浜～

JAは食料供給を担う農業・農業者の重要性を早期に将来の後継者に植え付け地域リーダーの人づくりを促進するため農業塾を毎年開校。今年も22人のKid'sたちが消費地で奮闘し、両親や故郷そして農畜産物の大切さを改めて実感した

師 走の12月26日、今年で4度目となる農業塾。例年出発日には必ず大雪が付き物となっていたが、今年は雪の少ない中、西和賀町、北上市、花巻市、遠野市、大槌町といったJA管内の各地域から、それぞれ学校の違う22人の子どもたちが初顔合わせとなった。東京駅まで約3時間の新幹線の車内。最初は緊張して静かだった子どもたちも、隣同士徐々に互いの学校生活やクラブ活動などを情報交換。ちやぐりんの付録「すくろく」を活用しながら、到着時刻に迫る頃にはすっかり打ち解け、スタッフとも会話を交わす余裕を見せる順応の早さを見せた。今年のKid'sたちは活躍してくれそうな大いに期待できる幕開けとなった。

東 京駅に到着後、すぐに大手町のJAビルへと移動。直筆したメッセージ入り「花巻産もち米の紅白餅250セット」の配布が子どもたちを待っている。到着する数分の間、バス車内ではJASTAFFが呼びかけ「岩手県花巻市から来ました」と声出しを繰り返し練習。ここでも子どもたちは元気に「はいーさあ、いざ農業・農村ギャラリーへ。配り始めは人通りも少なく、緊張もあり戸惑っていたが徐々に人も増えて始めると声も出始める。農業・農産物への思いを首都圏の消費者に伝えようと自らしたためたメッセージカード。」岩手県から来ました。花巻のお米で作ったお餅です、受け取ってください」と奮闘すること30分ほどであったという間に配布を終えた。当初、自分から話しかけることに不安そうだった子どもたちも「ありがとう」「がんばって」といった優しい言葉をかけられると、自信を持ち積極的に歩み寄るようになり、終盤には何とも言えない充実した良い表情に変っていた。

姉

妹提携を結んでいるJA横浜の農産物直売所・ハマツ子メルカートきた店では花巻産のリンゴ「ふじ」や洋ナシ「ラ・フランス」、ハヤチネフーズ「飲むヨーグルト」の試食販売や、臼と杵で搗いた「きなこ餅」の振る舞いに挑戦。子どもたちは、互いにすっかり打ち解けたのと、前日の経験から自信を持てたのか、作業開始から「岩手花巻のリンゴです」と大きな声。積極的に来客者へJAいわて花巻の特産物をPRし、用意した農産物は2時間ほどで完売した。消費者からは「すくろくおいしい」「遠くからご苦労様だね」といった優しい言葉や満面の笑顔を掛けられ、故郷の農業や農産物の大切さ、その役割を肌で感じた様子だった。当日の感想文には「自分も農作物で他の県と交流する仕事に就きたい」という言葉が見られ、地域農業の担い手育成として、喜ばしい成果が見られた今回の販売体験となった。